

# 総合的な学習の時間指導演案

令和元年10月25日（金曜日） 第3校時 4年1組 公民館会議室

1 単元名 人に優しい地域をつくろう

## 2 考察

### (1) 教材観

①学習内容：高齢者への理解を深め、よりよい高齢者との生活について考える。

学習指導要領上の位置付け

第1 目標 (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

②主な伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力

○知識および技能

・地域の高齢化の現状や高齢者福祉を実現しようとする人々の工夫や努力が分かる。

○思考力、判断力、表現力

・自分の関心から、高齢者福祉についての課題を設定し、解決方法を考えて追究している。

・各グループの目的に応じて、どのような方法で調べるかを決め、身近な施設や地域の高齢者やその人達に関わる人から情報を集めている。

・高齢者の日常生活や来校時のバリアについての事実を高齢者施設と比較したり、疑似体験を通して考えたことをもとに分析したりして、課題の解決方法について考えている。

・高齢者や地域の人達に自分たちが考えたことを発表名人に分かりやすくまとめている。

○学びに向かう力、人間性等

・高齢者の暮らしや困難さを理解しようとし、友達と協力しながら課題を解決する力。

・自分が地域の高齢者のためにできることに気づき、地域の中で実践しようとしている。

③そのために必要な指導・学習活動

・老人ホーム見学及び、職員の方からの認知症サポーターの講義

・福祉センターの職員の方からの高齢者疑似体験での講義及び車イス体験

・発表名人での体験のまとめと地域での交流発表

④今後の学習の活用

・福祉施設で働いている人を調べる（キャリア教育）

(2) 児童の実態及び指導方針（男子7名 女子4名 計11名）

①本単元に関わる児童生徒の実態（事前のアンケート結果より）

・高齢者と一緒に住んでいる児童 4名

・祖父母が近くに住んでいる児童 3名

〈高齢者との関わりについて〉

・世代間交流は楽しい 11名

〈高齢者に対するイメージ〉

・歩いたり、階段を上ったり下りたりするのが大変そう、どこかが不自由 8名

・いろいろなことを知っていてすごい 1名

・見守り隊で登下校の時、見守ってもらってありがたい 2名

〈高齢者の生活で知りたいこと〉

・一番大変な時はいつか 2名

・ごはんを食べるとき、どのように食べているか 2名

- ・高齢者の方が喜ぶこと 1名

〈高齢者の方と一緒にやりたいこと〉

- ・昔遊び 6名
- ・おしゃべり、歌をうたう 4名
- ・買い物 1名

アンケート結果から、普段から高齢者の方と関わる児童が多いことが分かった。しかし、高齢者の方と快適に過ごすにはどのようにしたら良いか、どんな視点で接したら良いか、までは考えたことがないという実態であった。このため、「人に優しい地域」づくりを行うため、まずは本学習で福祉について理解を深め、高齢者の方が来校しやすい学校づくりを進めていきたい。

また、児童は、施設面が便利で使いやすいことがバリアフリーであり、重要だととらえているが、実際に高齢者の方の話を聞くと、児童とのふれあいを望む人が多い。こうした実態を交流会で児童が知って、自分たちに何ができるのか考えさせていきたい。そして、本学習での交流をもとに新たな課題を見だし、11月に行う特別養護老人ホーム訪問では、これからの生き方につながるような充実した体験をさせたい。

## ②指導方針

- ・体験の前に福祉の意味や、「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」など福祉に欠かせない考えを学ぶために、インターネットや本で調べる。
- ・高齢者の生活環境の実態を学ぶために、老人ホーム見学及び、職員の方からの認知症サポーターの講義を聞く。
- ・高齢者の生活環境の実態を学ぶために、福祉センターの職員の方から高齢者疑似体験での講義を受け車イス体験を行う。また、高齢者の身体と児童の身体との違いについて学ぶ。
- ・学校にはバリアフリーになっている場所や高齢者にとって不便な場所があるか高齢者疑似体験、車椅子体験を通して探す。
- ・体験活動をもとに高齢者にとって来校しやすい施設なのかどうかを考え、まとめていく。
- ・高齢者の方との上手な接し方を学ぶために、老人ホームの職員の方からお話を聞く。
- ・高齢者の方の困っていることを知るために、実際に高齢者の方にインタビューしてお話を伺う。
- ・公民館で寿会の皆さんを招待して発表会を開き、「安心して楽しく過ごせる学校にするためには」を視点とした意見交流会を開く。そこで高齢者が学校で快適に過ごせる方法についての考えを深める。

## 3 研究（研修）とのかかわり

研究（研修）テーマ「自分の考えや思いを表現できる児童の育成」

本学級の児童は、自分の考えを持ち発表しようとする意欲は大変高いが、その考えや思いを相手に伝えることが上手に出来ず、トラブルになってしまうこともある。相手に気持ちや考えを伝えるためには相手意識をもち、適切な言葉を選び、分かりやすく表現する必要がある。

今回は相手意識を高め、より相手にふさわしい言葉や表現を使って発表できるよう、自分たちが調べた福祉の学習の成果を地域の高齢者の方を招いて発表し、意見を聞いて話し合う交流会を開く。写真などをプロジェクターで分かりやすく提示して具体的に自分たちの考える高齢者の方へのサポートの方法を示す。そして、その後の交流会を通じて高齢者の方と直接お話することにより、自分の考えや思いを一人一人が伝え、福祉の実態を知ったり、よりよいサポートの仕方を学んだりしていく場としていきたい。

## 4 単元（題材）の目標

- 地域の高齢化の現状や高齢者福祉（障害者福祉）を実現しようとする人々の努力や工夫が分かる。
- 課題解決に向け、自分ができていることに気づき、友達と協力して調べることができる。
- 高齢者（障害者福祉）に関する課題をもって情報を収集し、発表名人や新聞等にまとめることができる。
- 相手意識をもち、相手にふさわしい言葉や表現を用いて分かりやすく発表したり説明したりすることができる。

5 評価規準及び指導の計画概要 \*今年度は移行期間中のため、評価の観点、以下の通り。

評価規準	課題設定・問題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉に関わる言葉を調べたり、高齢者のお話を聞いたりして分かったことをもとにして、高齢者を含めた誰にとっても安心して楽しく過ごせる地域を作るための課題を設定することができる。</li> <li>老人ホーム見学や車イス体験をもとに、疑問に思うことや感じたことから課題を設定することができる。</li> <li>「人に優しい地域」をつくるために、まずは学校をどのようにしたらよいか課題を設定する。</li> </ul>				
	ものの考え方・創造的な態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットや本を利用し、課題を解決するための必要な情報を選択することができる。</li> <li>見学や体験、インタビューを通して、課題を解決するための必要な情報を選択することができる。</li> <li>調べた内容を文章やグラフ・絵などを用いてまとめることができる。</li> </ul>				
	生き方・人と関わる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学や体験を通して、高齢者を含めた誰もが暮らしやすい生活環境や今後の自分の行動を考えることができる。</li> <li>高齢者と積極的にコミュニケーションを図ることができる。</li> <li>話し合いを通して、よりよい高齢者との関わりを考えることができる。</li> </ul>				
学習過程	時	○ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価の観点		
				課	も	生
第一次 課題の設定 4時間 つかむ	1	○高齢者と一緒に体験した行事などを思い出して、高齢者について知っていることやイメージなどをもとに学習のテーマを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高齢者は不自由でかわいそう」というイメージに偏らないよう、身体の不自由さなどは事実だけを拾い上げ、そのうえでよりよく共生するためにはどうしたらよいかという本学習のテーマに向けてまとめていく。</li> </ul>	○	○	
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「世代間交流会」などを参考に高齢者との体験を思い出し、イメージをまとめていく。</li> </ul>				
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉に関わる言葉について知る。</li> <li>本やインターネットを利用して福祉についての言葉を調べる。</li> <li>例：福祉、ユニバーサルデザイン、バリアフリー、車いす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検索エンジンを使って情報収集するが、ここではウェブページを探すことが目的ではないので、検索語を指定し、候補の中からウェブページを見て探せるよう指定する。</li> </ul>	○		
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「高齢者も来校しやすい学校」をテーマに学習計画を作る。</li> <li>福祉について調べたいこと、高齢者に聞いてみたいことを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高齢者にとって幸せな社会を作るには何が必要なのか」という観点で話し合わせ、それを実現するために自分たちが知るべきことを考えさせる。</li> </ul>	○		
第二次 情報の収集 3時間 追究する①過程	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インターネットや本から必要な情報を収集する。</li> <li>高齢者の体や心の変化(障害、痴呆症含む)を知る。</li> <li>高齢者施設での生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検索エンジンに複数の検索語を入れて検索する方法とそのよさを指導する。その際、どんな検索語を入れればよいかを考えさせ、適切なものを探せるようにする。</li> </ul>		○	
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○老人ホームの職員から、高齢者が地域で生活することの困難さや、入所者の問題点(障害、痴呆症)についてお話を聞き、施設見学をする。</li> <li>○認知症サポーターの講義を受け、サポーターとなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老人ホームの職員には、本単元の学習の流れを伝え、高齢者の体の状態を実体験してみる必要性、施設入所者にとっての子どもたちとの交流の必要性、子どもたちにとっての高齢者と関わることのよさについて触れることを依頼する。</li> <li>老人ホーム職員には、リハビリや娯楽の様子を依頼し、児童が気軽に元気に挨拶する等積極的に関わられるようにする。</li> </ul>		○	○
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者疑似体験、車イス体験を行い、学校にバリアがないか探す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉センター職員には、車イスのコースからどんな場所が車イスだと不便なのかを児童に伝えてもらえるよう事前に依頼する。</li> </ul>		○	○

第三次 整理・分析 7時間	1 5 9	<p>○見学や体験活動の感想やその時の気持ちについて記述し、まとめる。</p> <p>○ここまでの活動で分かったことを友達と確認し合ったり補い合ったりする。</p> <p>○発表名人で、老人ホーム見学、高齢者疑似体験、車イス体験などをまとめる。</p>	<p>・「高齢者が使いやすい施設とは」「自分たちが高齢者にできることとは」「高齢者にとって居心地がよい環境とは」の3観点を伝え、よりよい話し合いができるように支援する。</p> <p>・寿会の方や地域の方に見ていただくことを意識して、図や写真、表などを使って分かり易くまとめられるよう、支援する。</p>			○
第四次 まとめ・表現 1時間	1 (本時)	<p>・調べたことの中間発表を行う。</p> <p>○発表名人で具体的に調べたことをプロジェクターを活用して大きく提示して分かりやすく発表する。</p> <p>○交流会では、自分たちの調べたことから気になっていることや疑問に思っていることを中心に質問を高齢者の方にして、意見交流を深めていく。</p>	<p>・「地域の高齢者が使いやすい施設とは」「自分たちが高齢者にできることとは」「誰もが居心地のよい環境とは」の3観点について、調べたことを班ごとに発表する。</p> <p>・見学や体験活動から感じたこと、考えたことを根拠にして自分たちの考えを話せるよう支援する。</p> <p>・寿会の方や地域の方に見ていただくことを意識して、図や写真、表などを使って分かり易くまとめられるよう、支援する。</p>			○
第五次 整理・分析 5時間	1 追究する② 【生かす・広げる】 過程	○班ごとに老人ホームでの交流会に向けての計画を立てる。	・「入所者を喜ばせるために自分たちができること」という視点で考えさせる。その際、老人ホームでの交流会を行うことでどんな効果が考えられるかも考えさせる。			○
		<p>”○班ごとに老人ホームの交流会に向けての準備をする。</p> <p>・必要なものを話し合う。</p> <p>・分担して作成する。</p> <p>・練習をする。</p>	・内容は事前に老人ホーム職員に伝えておく。			○
		○老人ホームでの交流会を行う。	・内容は事前に老人ホーム職員に伝えておく。			○
第六次 まとめ・表現 8時間	1 5 6 7 8 まとめる過程	○発表を行うことを意識して活動内容をまとめていく。	・3年生に発表することを踏まえ、ふさわしい言葉や表現ができるよう指導する。			○
		○他学年の前で、自分たちの活動内容を発表する。	・3年生に発表する。3年生は未習の内容なので、下学年にあった説明や話し方ができるよう助言する。			○

6 本時の学習 (17 / 28)

- (1) ねらい これまで行った福祉体験をもとに、自分たちの考えや意見を発表して高齢者の方と意見交流することにより、誰もが安心して楽しく過ごせる地域にするために自分たちができることに気付いたり、考えを深めたりすることができる。

【本時の視点】 今までの体験活動から学んだことや自分の考えをまとめ、公民館で高齢者を招待したり意見交流したりすることは、児童の思いや考えを伝える力を養い、表現力を高めたり、新たな気付きを持たせたりするために有効であったか。

- (2) 人権教育の視点 高齢者への理解を深め、お互いに共に生きようとする態度を育てる。  
 (3) 準備 パワーポイント、タブレット、スクリーン、プロジェクター、班のネームプレート  
 児童：ワークシート  
 (4) 展開

学習活動 予想される児童生徒の反応	時間	指導 形態	指導上の留意点及び支援・評価
<p>&lt;学習課題の把握&gt;                      1 発表の目的を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時のめあて (ねらい)                              「誰もが安心して楽しく過ごせる学校にするためにはどうしたらよいか」調べたことを発表して意見交流会をしよう。</p> </div> <p>・発表したら、それに対する意見を聞いてメモを取ろう。</p>	5分	一斉	<p style="text-align: center;">◎努力を要する児童生徒への支援                              ○力を高めたい児童生徒への支援      ◇評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰もが安心して楽しく過ごせる地域にするためには、まず学校ではどうしたらよいか」という本学習の目的を提示する。</li> <li>・本時での学習をもとに、特別養護老人ホームへ訪問することを確認させる。</li> <li>・高齢者の方は、それぞれ3グループに事前に分ける。</li> <li>・よりよい交流会をするために、メモを取ることも指導する。</li> <li>・高齢者の方には、発表が終わった後に意見や感想を伺うことを確認する。</li> </ul>

<p>&lt;課題の追究&gt;  2 3 グループに分かれて発表する。  〈バリアフリーグループ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人ホームの廊下は車イスがすれ違えるくらい広い。</li> <li>・部屋のドアは重くなくて引き戸だった。</li> <li>・トイレが広くて手すりがあった。</li> <li>・学校の玄関は段差があって、怖い。</li> <li>・廊下は狭い。</li> <li>・トイレが和式だと大変。</li> </ul> <p>〈高齢者の日常グループ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は、歩きづらかったり、目が見えづらくなったりする。</li> <li>・自分一人で動くのは大変そう。</li> <li>・階段は上ったり下りたりが辛そう。</li> <li>・学校は高齢者にとっては不便な施設なのかもしれない。</li> </ul> <p>〈安心して過ごせる学校づくりグループ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に高齢者体験をしたら、歩きづらくてとても大変だった。</li> <li>・一人では動くことが辛かった。</li> <li>・階段もトイレも使いにくかった。</li> <li>・車イスがとても怖かった。実は学校はあまりバリアフリーになっていない。</li> <li>・バリアフリーになっていない場所だからこそ、自分たちがお手伝いをする必要がある。</li> </ul>	各グループ7分 21分	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクターを活用して分かりやすく発表させる。</li> <li>・</li> <li>・バリアフリーという考え方をもとに、学校と老人ホームを比較し、どのような施設ならば高齢者が来校しやすいか発表させる。</li> <li>・「地域の高齢者を含めた誰もが使いやすい施設とは」という観点で発表させる。</li> </ul> <p>◎学校と老人ホームでは、どのような違いがあり、バリアがあるのか考えを持たせて発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〈高齢者の日常グループ〉は「自分たちが高齢者にできることとは」という観点で発表させる。</li> </ul> <p>◎高齢者にとって助かることはどんなことかという考えを持たせて発表させる。</p> <p>○自分たちが普段できることは何かという考えを持たせて発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰もが居心地のよい環境とは」という視点で発表させる。</li> </ul> <p>◎高齢者体験や車いす体験を踏まえて、高齢者とどのように関わったら喜ばれるだろうかという視点を持たせて発表させる。</p> <p>○バリアフリーになっていない箇所にはどんな工夫が必要かという視点を持たせて発表させる。</p>
<p>3 各グループに分かれて高齢者にグループに入っただき交流会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔で挨拶することは大切だな。</li> <li>・やさしく体にふれよう。</li> <li>・ゆっくり歩いてあげよう。</li> </ul>	10分	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰もが安心して楽しく過ごせる学校にするためにはどうしたらよいか」を視点を事前に考えた質問をさせて話し合いをさせる。</li> <li>・バリアフリーとは、施設面だけでなく心のふれあいを求めていることに気付けるよう支援する。</li> <li>・グループの高齢者の方から老人ホーム訪問へのアドバイスをいただく。</li> <li>・気付いたこと、考えたことはメモさせる。</li> </ul>
<p>4 各グループで出た意見や感想を発表し、全体で共有する。</p>	4分	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモをもとに、高齢者の方からの意見や感想を発表させる。</li> </ul>
<p>&lt;本時のまとめ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい学校にしていくために自分の考えを発表する。</li> </ul>	5分	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の振り返りをワークシートに書かせる。</li> <li>・高齢者との交流を通じ、高齢者の方との心の交流を行うことが「人に優しい地域」づくりになることに気付かせる。</li> </ul> <p>◎自信を持って自分の意見を発表させる。</p> <p>○周囲の友達の意見も参考にしながら「よりよい学校にしていく」ことを意識させ、意見を発表させる。</p>
◇評価：高齢者との交流を通じ、高齢者の方に対し、自分達にできることについて気付いたり、考えを深めたりことができる。 [生き方・人と関わる力]			